

ChatGPT に聞いてみた 運転支援機能が充実した具体的な車種

緑内障ドライバー向けの具体的な運転支援車の例や運転継続のための診断基準、生活上の工夫などについても

ChatGPT:

ありがとうございます。それでは、緑内障ドライバーのための運転支援技術・運転継続の診断基準・生活上の工夫について、以下の3つの視点で具体的に解説します。

① 緑内障ドライバー向け: 運転支援機能が充実した具体的な車種

以下は、視野欠損を補助しうる機能を多く備えている車種の一例です(2024年時点で国内販売されているモデルに基づく)。

○ トヨタ「プリウス」「ヤリス クロス」「クラウン」

- Toyota Safety Sense 搭載(全車速追従 ACC、プリクラッシュセーフティ、レーンキープ等)
- オプションで**パノラミックビューモニター(車両周囲 360°)**を搭載可能

○ 日産「ノート」「セレナ」「エクストレイル」

- プロパイロット(高速道路などでの自動加減速+車線維持)
- インテリジェントアラウンドビューモニター搭載車あり

○ ホンダ「フィット」「ヴェゼル」「ステップワゴン」

- Honda SENSING(先進運転支援システム。死角検知・後方誤発進抑制等)
- 狭い道でも安全にバックできるようリアカメラガイドあり

○ スバル「インプレッサ」「フォレスタ」

- アイサイト X(先進的なレーダー・ステレオカメラによる周囲検知)
- 高精度マップと連動したアダプティブクルーズコントロール

💡 **ポイント:** 緑内障の方にとって重要なのは、**死角の補完機能(BSM、360°カメラ)と衝突回避支援(AEB)**です。

② 緑内障患者が運転を継続するための診断・検査基準(日本)

○ 一般的な免許更新での検査

検査項目	内容
視力検査	両眼で 0.7 以上、かつ片眼でそれぞれ 0.3 以上(矯正可)
視野検査(必要に応じて)	通常は実施されないが、緑内障などの申告や医師からの指摘があれば行われることがある
医師の診断書	指定医から「運転に支障がない」との診断があれば更新可能な場合がある

⚠ 視野の具体的な基準は明示されていないが、実際には「左右 120° 以上の視野が必要」とされることが多いです(運転適性検査などで用いられる目安)。

○ 推奨される検査(自費で受けられる)

- ・ ゴールドマン視野検査
- ・ 動的視野検査
- ・ 視覚運動反応検査(Useful Field of View)

💡 視野に不安がある方は、眼科医と相談の上で診断書を作成し、運転継続の可否を判断しましょう。

③ 緑内障ドライバーの生活上の工夫・安全対策

○ 運転時間・ルートの工夫

- ・ 夜間運転を避ける(暗所では視野欠損がより顕著に)
- ・ 見通しの良い幹線道路を利用
- ・ 交通量の少ない時間帯に移動

○ 車内装備の工夫

- ・ ワイドミラー・補助ミラーの設置
- ・ ダッシュボードカメラ連動モニター
- ・ 音声アラート付きのナビやアプリ

○ 日常的な視覚訓練・認知対策

- ・ アイリハビリ(視野のスキャン技術の訓練)
- ・ 歩行時も周囲の音や気配に敏感になる訓練
- ・ 運転シミュレーターを使った安全確認

○ 家族・周囲の協力

- ・ 定期的な運転の様子の確認
- ・ 高速道路・長距離運転は同乗者がナビサポート



総合アドバイス

- ・ 運転支援車の導入は、視野欠損を持つドライバーにとって非常に有効な手段ですが、完全な代替にはなりません。
- ・ 自分の視野状態を正確に把握し、生活と運転行動を調整することが最重要です。
- ・ 医師の指導と連携しながら、運転を安全に継続するかどうかの判断を定期的に見直すことが大切です。